



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 97) uniwish24号 (2017年6月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>



この水を飲むしかない...

やっとのことで手に入れた水は、命と未来を奪う水。

今、安全な水を手に入れられない人は
世界で6億6,300万人にのぼります。

世界人口の半数以上が水道を使えるようになった今なお、6億6,300万人もの人々が、安心して飲める水が身近になく、池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいます。

その半数近くが、サハラ以南のアフリカ諸国に集中しています。

多くの途上国では、水汲みは子どもたちの仕事。サハラ以南のアフリカ諸国だけでも、330万人を超える子どもたちが、水の重さに耐えながら、毎日遠い道のりを歩き続けています。疲れ果てた子どもたちには、学校に通う時間も体力も残されていません。

○日本ユニセフ協会
西アフリカ・トーゴの村で茶色く濁った水を飲む少年
(2016年4月、日本ユニセフ協会職員撮影)



○日本ユニセフ協会

毎日、800人もの子どもが、汚れた水や不衛生な環境が原因で命を落としています。

子どもたちの多くは、池や川、野ざらしの井戸など飲用に適さない水源に頼るしかなく、ようやく水源にたどり着いても、その水は多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水。

浄水処理をしないまま飲むと、抵抗力の弱い子どもたちはたちまち下痢を起こしてしまいます。汚れた水を主原因とする下痢で命を落とす乳幼児は、年間30万人、毎日800人以上にものぼっています。

汚れた水

不衛生な
環境

手に入る水の量が少ないために、身体や生活環境を清潔に保てなくなると、子どもたちは肺炎などさまざまな病気に感染しやすくなります。

特に洪水などで汚水が蔓延した際や、避難民キャンプなどの密集した環境では、十分な量のきれいな水を確保するとともに、衛生キットの配布や病気予防の知識の普及が欠かせません。

ユニセフは、子どもたちが地域の中でいつでも安全な水を使えるように、世界中の村々や学校、保健センターなどに給水所を設置しています。

給水所ができた地域では、下痢や病気の症例が減り、手洗いなどの衛生習慣が根つき、何より子どもたちが目に見えて元気になってきています。

安全な水が身近にあるか否かは、子どもの一生を左右します。幼い子どもの死の主な原因である下痢は、その6割が汚れた水や不衛生な環境によるものです。子どもたちは下痢による脱水症をくり返すうち、慢性的な栄養不良

に陥り、他の病気にもかかりやすくなります。こうした健康被害のために発育が阻まれ、あるいは水汲みのために学校に通うこともできず、多くの子どもの未来が閉ざされています。

ユニセフは、2030年までに世界中すべての子どもが身近な場所できれいな水が使えるようになることを目指しています。

シリア緊急支援

7年目を迎えたシリア危機。今、子どもたちの状況が急速に悪化しています。

この危機の影響で、800万人以上のシリアの子どもたちが人道支援を必要としています。

500万人以上の子どもが国内外のキャンプなどで過酷な避難生活を余儀なくされるだけでなく、危険な国境地帯をいくつも越えて欧州をめざす家族が急増しました。



©Syria/UN037298/Soulaiman

ユニセフの支援活動

ユニセフはシリア国内とシリアからの避難民を受け入れている周辺国において人道支援を拡大。感染症を予防するための予防接種、衛生環境を保つための衛生用品の配布、トイレの設置、安全な飲料水の提供などに加え子どもたちへの心のケアや教育の支援も行っています。

2017年 ユニセフの活動目標

- | | |
|--------|---|
| 栄養 | <ul style="list-style-type: none">・200万人の5歳未満の子どもや妊婦、授乳中の女性へ微量栄養素の提供・230万人の子ども、妊婦、授乳中の女性を対象に急性栄養不良の検診の実施、および急性栄養不良の5歳未満の子ども8,500人への治療の実施 |
| 保健 | <ul style="list-style-type: none">・320万人の5歳未満の子どもにポリオの予防接種の実施・210万人の子ども、および母親を対象にプライマリ・ヘルスケアの面談の実施 |
| 水と衛生 | <ul style="list-style-type: none">・480万人を対象に水と衛生システムの修繕、回復、拡大の実施・160万人を対象に緊急時の水と衛生設備サービスの改善を通じた安全な水の提供 |
| 子どもの保護 | <ul style="list-style-type: none">・250万人に地雷回避教育を提供・32万人の子ども、および保護者に子どもの保護プログラムの実施 |
| 教育 | <ul style="list-style-type: none">・5-17歳の280万人の子どもが正規教育に就学する。・5-19歳の33万6,000人の子どもが非正規教育に登録される。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none">・92万人の子どもが直接支援やE-voucherによる毛布や冬服などによって、季節の厳しさから身を守ることができる。・1万4,900世帯の家族が定期的な現金給付を受ける。 |



また、プライマリ・ケアや予防接種、戸別訪問による子どもの栄養チェック、栄養不良治療などの保健ケアも届けています。紛争の影響を受けている何万人もの子どもたちが、心理社会的ケアを通じて、苦痛や悩みに対処するサポートを受け、再び子どもでいられる機会を得ています。

ユニセフは、子どもたちが教育を続けられるよう、避難所の敷地内にプレハブ教室を設置し、補習授業をおこなっています。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

**安全な場所を求めて避難する子どもたち・いかなる時も・子どもの保護を。
佐賀県ユニセフ協会でも、皆さまのご支援をいただきながらシリア緊急支援に取り組んでいます。**

長谷部誠選手 ユニセフ親善大使としての エチオピア訪問を終了 「今後も、こうした活動を続けていきたい」

【2017年6月1日 東京発】

プロサッカー選手として世界を舞台に活躍する長谷部誠選手は、5月31日（水）現地時間深夜、昨年12月のユニセフ（国連児童基金）国内大使＝日本ユニセフ協会大使就任後初の海外訪問先となったアフリカ・エチオピアの訪問を終え、帰国の途につきました。

ワクチンを届ける旅へ

5月29日（月）、現地時間早朝に首都アディスアベバに到着した長谷部選手は、3日間の滞在中、2015年から自らの公式ホームページを通じて支援を呼びかけているワクチン支援の最前線を訪ねました。滞在初日は、到着したその足で、海外から空輸されたワクチンが一時的に保管される冷蔵貯蔵施設を訪問。そこから、「コールドチェーン」と呼ばれる、時に電気が無い場所・状況の中でも保冷状態を維持する物流網で運ばれていくワクチンをアディスアベバから約150km離れたアムハラ州ガシュ・アンバ村まで追いかけて、子どもたちにはしかワクチンが届くまでの仕組みや、予防接種を含めた包括的な基礎保健サービスの拡充に向けた様々な取り組みを、支援の最前線で確認されました。



©日本ユニセフ協会/2017

アディスアベバの冷蔵貯蔵施設から北シュワ州の中継施設を経由して届けられたワクチンを入れた小型の保冷ボックスを肩に掛け、保健センターのスタッフとともに予防接種活動が実施される村に向かう長谷部選手。



©日本ユニセフ協会/2017

村の子どもたちに、はしかワクチンが接種される様子を見守る長谷部選手。

ワクチン支援の重要性

長谷部選手は、大使就任前の2015年4月に自身の公式ホームページを開設した際、同ページで得られる「MEMBERS＝有料会員」会費のうちサイト運営費等を除いた収益を、ユニセフを通じて世界の厳しい状況にある子どもたちへの支援として活用することを表明。その資金（2016年末までの支援総額は4,930,565円）は、多くの開発途上国で幼い子どもの命を脅かす「はしか」を防ぐためのワクチン購入費用に充てられています。

この取り組みを始めた当初から自身の呼びかけに「賛同してくださった方々に、みなさんの寄付がどのように使われているのか、僕自身が確認しみなさんに報告したい」との思いを持っていた長谷部選手は、2015年11月、世界最大の子どものワクチンの調達・供給を担うユニセフが全世界で展開する予防接種支援活動の重役なハブとしての役割を担うデンマーク・コペンハーゲンのユニセフ物資供給センターを訪問。はしかを含めたワクチン調達・供給の仕組みやその規模を学び、予防接種支援活動の重要性も改めて確認されました。そして今回、そのワクチンが実際にどのように子どもたちのもとへ届くのかを自らの目で見届けるため、エチオピアを訪問されました。

ユニセフ支援を見届けて

訪問を終えた長谷部選手は、次のように語りました。
「今回エチオピアで、（MEMBERSのみなさんとともに）ユニセフを通じて支援していることをしっかりとこの目で見られたことは、とても大きなことでした。ワクチンは、きちんと温度調節されて道なき道を運ばれてゆきます。子どもたちにワクチンを届けるために、（多くの方々が）困難な環境の中、そして時に予防接種に対してネガティブな考えを持つ方もいる様々な社会の中で努力されていることを感じました」



©日本ユニセフ協会/2017

予防接種に集まったお母さんたちから話を聞く長谷部選手。

「今回、（支援の）現場に足を運ばなくては感じられないことが沢山ありました。今後も、こうした活動を続けていきたいと思います」

「エチオピアで出会った子どもたちは、物質的には豊かではないかも知れませんが、みんな笑顔でした。幸せって何だろうということを、子どもたちに教えてもらったように思います」

「子どもたちには、大きな可能性を秘めたこの国をより良くするために、頑張ってもらいたいと思います」



イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加 及び 贈呈式

- 1月11日（水）・2月11日（土）・4月11日（火）・5月11日（木）
イエローキャンペーン参加 <イオン佐賀大和店>
- 4月10日（月） イエローレシート贈呈式 <イオン佐賀大和店>

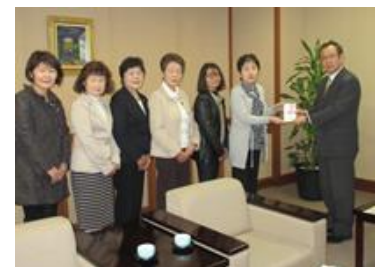
※ イエローレシートキャンペーンとは、毎月11日にレジで発行される黄色いレシートを応援したい団体のBOX に投函すると、買いもの額の1%がその団体に寄付されるというものです。

- 2月4日（土） ユニセフ出前授業 ～異文化を知ろう～
小城市立三日月小学校（5年生）
- 2月14日（火） ユニセフ学習 ～ユニセフと私たちにできること～
佐賀県立ろう学校中学部の生徒さん5人と引率の先生4人が事務所訪問
- 2月25日（土） トヨタ紡織九州レッドトルネード募金活動
第41回日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて<神埼市中央公園体育館>
- 2月26日（日） 上峰町立上峰小学校 ユニセフ募金贈呈 <上峰小学校>
- 3月1日（水） 小城市立芦刈観瀾校 ユニセフ募金贈呈 <芦刈観瀾校>
- 3月2日（木） 佐賀大学教育学部附属小学校 ユニセフ募金贈呈
<佐賀大学教育学部附属小学校>
- 3月11日（土） ユニセフ講演会 <佐賀県国際交流プラザ>
「夢を語るには？ トーゴで見た厳しい状況の子どもたち～」
講師：（公財）日本ユニセフ協会
団体・企業事業部 部長 海老原隆一さん



※ 2016年4月18日から4月29日まで「FNSチャリティーキャンペーン」の取材に同行した海老原さんが、トーゴの首都ロメで出会った子どもたちの様子や「農村部の水の問題」「都市のストリートチルドレンの問題」ユニセフが支援している「セカンド・チャンス・スクール」などについてお話いただきました。

- 3月13日（月） JA佐賀県女性組織協議会「愛の募金」贈呈 <佐賀新聞社>
- 3月25日（金） 佐賀市北部児童センター募金贈呈 <佐賀市北部児童センター>
- 4月26日（水） 「えびすFMラジオ」の佐賀市の市民活動を応援する番組「さがん市民活動アワー」において、ユニセフの成り立ちや日頃の活動について紹介する機会を得ました。
<佐賀市エスプラッツ1階>



- 5月3日（水） 「有田陶器市」での「シリア緊急支援」募金活動 <今右衛門窯前>

※ 今年で114回目を迎える有田陶器市は、期間中128万人を超える人出でした。3日は朝から晴天で、陶器市会場は焼き物ファンで大賑わいでした。佐賀大学のマスコットキャラクターの「カッチーくん」が今年も募金活動に一役かってくれました。子ども達は、愛らしいカッチーくんを抱きついたり、話しかけたり、募金をしたりと大人気でした。



- 5月21日（日） 第48回『青年の日』第23回 チャリティーフェスティバルでユニセフの紹介
愛を集めよう 愛をとどけよう！ ～「ありがとう」を10000回～ <唐津市虹の松原広場>
- 6月11日（日） 「第33回鹿島ガタリンピック」会場で募金活動 <鹿島市七浦海浜スポーツ公園>
※ 佐賀県ユニセフ協会は、地元中学生のボランティアさんの応援もいただいて会場内で募金活動をしました。

第24回ユニセフ・チャリティーバザー

「シリアの子どもたちのために ～水を・薬を・食料を～」

5月21日(日) 14:00～15:30 佐賀玉屋デパート 南館アーケードにて



佐賀玉屋デパート南館アーケードにおいて、「シリアの子どもたちのために ～水を・薬を・食料を～」のテーマのもと、チャリティーバザーを開催しました。

会場には、例年にも増して、県内外からお寄せいただいたたくさんのバザー品が、所狭しと並びました。バザー当日は、佐賀清和高等学校のみなさん、北陵高校のみなさん、立正佼成会佐賀教会のみなさん、佐賀県ユニセフ協会ボランティアのみなさん他、多くの方々のご協力をいただき、バザー品の販売や街頭募金活動を行うことができました。

ボランティアの皆様の明るい笑顔での接客態度で、多くのお客さんも安心してお買い物をしていただきました。

また、高校生には、交代で玉屋の前の四つ角でも街頭募金活動をしていただきました。

企業・団体としてバザー品のご提供をいただいたリコージャパン株式会社佐賀支社様、国際ソロプチミスト佐賀西部様、北陵高校様、佐賀玉屋様、コープさが生活協同組合様、また、東京・福岡など県外から宅急便でバザー品をお送りくださった方、県内でご支援くださっている多くの皆様、お買い物をしてくださったたくさんのお客様、募金箱にご協力くださった皆様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、そしてボランティア協力をしてくださった皆様、誠にありがとうございました。



学生ボランティアによる募金活動



南館アーケードでのチャリティーバザー



街頭募金



買い物でにぎわうチャリティーバザー



買い物をする留学生の親子



ボランティアの皆さんの集合写真

5月7日(日) 14:00~20:00 ベストアメニティスタジアムにて募金活動！

ユニセフの パネル展と 募金活動

5月7日19:00から、ベストアメニティスタジアムで「サガン鳥栖 対 横浜F・マリノス」戦が行われました。佐賀県ユニセフ協会では、今年初めて、ベストアメニティスタジアムにおいて、パネル展示『長谷部誠選手が見た、感じた「レジリエンス」』と募金活動を行いました。

当日の観客数は、21245人の発表のとおりに、サッカーファンが多く詰めかけ、スタジアムは配布されたTシャツのピンク色に染まるほどでした。

応援に来られた方々からは、世界の厳しい環境で生活する子どもたちへ支援の募金をいただきました。ご協力をいただいた募金額は、32,642円でした。ありがとうございました。



募金、ありがとう



ユニセフのパネル展を見る子どもたち



募金活動



予告

絵画展を開催します。作品の応募を待っています。
＜テーマ＞「絵で伝えよう！『わたしたちの地球』を守る。」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

unicef

持続可能な開発目標(SDGs)とは



2030年の地球を
ユニセフとともに
考えよう

「持続可能な開発目標」は、今ある世界のさまざまな問題を解決し、「人間がずっと地球に住み続けられるように開発・発展する」にはどうしたらよいだろう？と世界みんなで考えた、17の目標です。

◇佐賀県内の小中学校の皆さんの作品を募集します。

大切な地球はひとつしかありません。その地球には課題が山積みです。地球のことは地球に住むすべての人(先進国も開発途上国も、大人も、子ども)が一緒に考えて、今すぐ課題に取り組んでいかなければなりません。

私たちが地球でずっと暮らしていけるように、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)17の目標の中から「人間がずっと地球に住み続けられるように開発・発展する」にはどうしたらよいか、身近な生活の中で自分のできる事やみんなで取り組みたい事を絵に描いてみましょう。

- (例)・水を大切に使おう。
・食べ残しをしないようにしよう。
・川や海を汚さないようにしよう。
・近いところへは、歩くか自転車で行こう。





ご支援 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様 トヨタ紡織九州レッドトルネード様 上峰小学校様 芦刈観瀾小学校様
芦刈観瀾中学校様 佐賀大学教育学部附属小学校ハートフル委員会様 JA佐賀県女性組織協議会様
北部児童センター様 母子草様 コープさが生活協同組合様 田口電機工業株式会社様
ボーイスカウト有田第1団様 開成小学校様 国際ソロプチミスト佐賀西部様

かささぎの里様 佐賀県医師会成人病予防センター様 西村会計事務所様 副島病院様 基里小学校様
佐賀県立ろう学校様 さが市民活動プラザ様 立正佼成会佐賀教会様 メガネのヨネザワ佐賀店様
佐賀大学医学部基礎研究棟様 大塚製薬佐賀工場様 埼玉県ユニセフ協会様 新栄公民館様
みねまつ歯科医院様 循誘公民館様 佐賀玉屋物流係様 道海島小学校様 佐賀県庁県民協働課様
田中電子工業様 ヘルスランチあららぎ様 JA中央会様 諸富北小学校様 佐賀新聞社総務局編集局様
九州電力(株)佐賀支社様 佐賀市社会福祉協議会様 グランデはがくれ様 唐津市民病院きたはた様
高齢者・障害求職者・雇用支援機構佐賀支部様 佐賀県地域婦人連絡協議会様 佐賀県商工会連合会様
「青年の日」実行委員会様 大崎郵便局様 佐星醤油様 今右衛門窯様
佐賀玉屋様 リコージャパン九州営業本部佐賀支社様 北陵高等学校様 佐賀清和高等学校様
鹿島東部中学校様 フォーラム鹿島様 (順不同：2017年1月28日～2017年6月11日)

※いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



これからの予定

- 7月4日(火) ユニセフボランティア講座(佐賀市立図書館2F大集会室) 詳細はHP/FBにてお知らせします。
ボランティアへのきっかけにいかがでしょうか?お待ちしております。
- 7月12日(水) ユニセフ出前授業 (佐賀市立日新小学校)
- 7月14日(金) ユニセフ出前授業 (長崎市立小江原中学校)
- 7月22日(土) SaNN(佐賀NGOネットワーク) 公開講座 佐賀県ユニセフ協会の活動紹介(佐賀県国際交流プラザ)
- 7月26日(水) 「ピースアクション2017」においてパネル展(佐賀市アバンセ)
- 8月2日(水) ユニセフ出前講座 ドリームパーク「水から世界を考えよう」(神崎市立西郷小学校)
- 9月6日(水) ユニセフ出前講座 ドリームパーク「水から世界を考えよう」(神崎市立千代田西部小学校)
- 9月17日(日) ユニセフのつどい2017
西野旅峰さん講演会「旅という火と旅からの風」～世界の子どものたちの現場から～
佐賀に縁のある若き自転車冒険者、西野旅峰さんの講演会です。
詳細は同封のチラシをご覧ください。たくさんの皆様のご来場をお待ちいたしております。

賛助会員募集中! 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ❖詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。

unwish の仲間たち!

日本語学校 弘堂国際学園のみなさん

—鳥栖市—



2017年 地域の清掃活動を自主的に行っている弘堂国際学園の皆さん

弘堂国際学園では、毎月自主的なボランティアグループが、学園全体に呼びかけて、地域の清掃やゴミ拾い活動を行っています。

ボランティア活動が学生の中に根付くきっかけになったのは、“長年ネパールの子どもたちに「RIFA」から食事や教育費の支援をしてもらってきたので私もこの地域に恩返しをしたい”というネパールの学生の呼びかけからでした。それから徐々に、自主的にボランティアに参加する学生が増えたと山本校長先生は話されました。

11月には、地域交流と留学生の相互理解のために「弘堂祭(学園祭)」が行われます。そこでは、地域の皆さんに学生の出身国を紹介したり、民族衣装でダンスやゲームを楽しんだりします。また、各国の自慢の料理も食バザーで食べることができます。毎年、300人以上の参加があり、大盛況です。

毎年、「弘堂国際学園」からは、学生さんたちが「弘堂祭(学園祭)」での食バザーの売り上げを「厳しい環境で生活している世界中の子どもたちのために」と佐賀県ユニセフ協会に届けてくださいます。

ちなみに、昨年の「弘堂祭」の食バザーでは、バングラデシュのミルクティー、ネパールの餃子(モモ)、ベトナムの揚げ春巻き、スリランカのチキンカレーを作って地域の方々に紹介しました。

寄付にあたって、留学生さんたちは、「今僕たちは、ここで何不自由なくご飯が食べられます。ご飯を食べられない子どもが世界にも自国にもたくさんいます。親のいない子どもやストリートチルドレンもいます。そんな子どもたちのために自分たちができることを精一杯やっていきたいと思います」と話されました。

最後に、弘堂国際学園の今後の展望について山本由子校長先生に伺いました。「学園の基本理念である質の高い日本語教育を通して、日本語を手段に国際社会に貢献する人材、地域国際共生に貢献する人材を数多く輩出していきたいと考えています。そのためには、本学園で日本語を高め、コミュニケーション力を磨き、自国や日本の企業に求められる人材育成に取り組んでいきたいと考えています。」と力強く話されました。

(語り：弘堂国際学園校長山本由子様、取材：江島きよ子)

弘堂国際学園は、30年前に鳥栖市の中富文子夫妻がアジアの留学生を支援するために設立された、国際交流ボランティア団体「RIFA」の活動経験をもとに2001年に設立されました。

弘堂国際学園は、「RIFA」の精神を引き継ぎ世界の若者を日本語の側面から支援している学校です。

教育のモットーは、3点です。

1. 「親身」が学園の精神です。
2. より高度で総合的な日本語能力の取得を目指します。
3. グローバルな人材を地域のサポートで育成します。

現在、アジア7カ国から220名ほどの学生さんが在籍し、日本語学習を中心に、日本文化や地域交流などを体験しています。



2016年秋 「弘堂祭」を楽しむ留学生



「弘堂祭」でのバザー収益金をユニセフに寄付